

令和5年2月19日（日）施行

## 第209回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解答

## 第1問

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1	給 料	1,200,000	所得 税 預 り 金	135,000
			普 通 預 金	1,065,000
2	当 座 預 金	200,000	仮 受 金	200,000
3	前 受 金	20,000	売 上	100,000
	売 掛 金	80,000	商 品	75,000
	売 上 原 価	75,000		
4	通 信 費	10,000	現 金	40,000
	租 税 公 課	30,000		
5	現 金 過 不 足	5,000	現 金	5,000
6	備 品	1,600,000	当 座 預 金	1,600,000
7	買 掛 金	50,000	仕 入	50,000

## 第2問

(ア)	¥ 18,800,000	(イ)	¥ 7,300,000	(ウ)	¥ 12,300,000
-----	--------------	-----	-------------	-----	--------------

## 第3問

&lt; &gt;の番号は伝票のNo.を示す。

現 金	
1/12 (未 収 金) <31> [ 500,000 ]	1/20 (未 払 金) <17> [ 600,000 ]
未 収 金	
1/10 (諸 口) <8> [ 500,000 ]	1/12 (現 金) <31> [ 500,000 ]
有 価 証 券	
	1/10 (未 収 金) <8> [ 400,000 ]
未 払 金	
1/20 (現 金) <17> [ 600,000 ]	
有価証券売却益	
	1/10 (未 収 金) <8> [ 100,000 ]

## 第4問

 商 品 有 高 帳  
 M 商 品

令 和 5 年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1 前月繰越	500	720	360,000				500	720	360,000
	6 仕 入	600	750	450,000				500	720	360,000
								600	750	450,000
	12 売 上				500	720	360,000			
					200	750	150,000	400	750	300,000
	20 仕 入	400	690	276,000				400	750	300,000
								400	690	276,000
	25 売 上				400	750	300,000			
					200	690	138,000	200	690	138,000
	31 次月繰越				200	690	138,000			
		1,500		1,086,000	1,500		1,086,000			
2	1 前月繰越	200	690	138,000				200	690	138,000

## 第5問

## 精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	658,000						658,000	
当座預金	581,000						581,000	
普通預金	440,000						440,000	
売掛金	1,060,000						1,060,000	
貸倒引当金		7,000		46,000				53,000
繰越商品	826,000		832,000	826,000			832,000	
貸付金	2,500,000						2,500,000	
備品	3,750,000			750,000			3,000,000	
買掛金		964,000						964,000
借入金		3,125,000						3,125,000
資本金		6,250,000						6,250,000
繰越利益剰余金		608,000						608,000
売上		15,700,000				15,700,000		
受取利息		38,000				38,000		
仕入	10,586,000		826,000	832,000	10,580,000			
給料	2,823,000		124,000		2,947,000			
広告費	516,000				516,000			
交通費	406,000				406,000			
通信費	345,000				345,000			
消耗品費	368,000			51,000	317,000			
支払家賃	1,381,000			106,000	1,275,000			
水道光熱費	220,000				220,000			
租税公課	169,000				169,000			
支払利息	63,000				63,000			
	26,692,000	26,692,000						
貸倒引当金繰入			46,000		46,000			
減価償却費			750,000		750,000			
消耗品			51,000				51,000	
未払給料				124,000				124,000
前払家賃			106,000				106,000	
当期純損失						1,896,000	1,896,000	
			2,735,000	2,735,000	17,634,000	17,634,000	11,124,000	11,124,000

令和5年2月19日（日）施行

## 第209回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解説

### 第1問

#### 1. 給料の支払いと所得税預り金の処理

源泉徴収とは、会社が従業員へ給料を支払う際に本来従業員自身が納める所得税額を従業員から一時的に預かり、後日まとめて納付する方法である。預かった所得税額は、後日納付する義務があるため、所得税預り金勘定を用いて処理をする。

給料を普通預金口座から支払った際は、給料勘定を用いて処理をし、源泉徴収額¥135,000を差し引いた¥1,065,000は普通預金勘定を用いて処理をする。

#### 2. 内容不明の入金を確認した場合の処理

出張中の従業員から内容不明の振り込みがあった場合：仮受金勘定を用いて処理をする。

(借) 当座預金	200,000	(貸) 仮受金	200,000
----------	---------	---------	---------

後日、内容が判明した場合：仮受金勘定から該当する勘定科目に振り替える処理をする。

(借) 仮受金	200,000	(貸) 該当する勘定科目	200,000
---------	---------	--------------	---------

#### 3. 商品売買取引（内金の相殺）の処理、売上原価対立法

L商品50個（売価@¥2,000）を販売したとあるので、販売代金¥100,000は売上勘定を用いて処理をする。販売代金=@¥2,000×50個=¥100,000

代金¥100,000のうち¥20,000はすでに受け取っている内金を充当しとあるので、前受金勘定を減少させる処理をする。

内金を受け取った場合

(借) 現金預金等	20,000	(貸) 前受金	20,000
-----------	--------	---------	--------

その内金を充当する場合

(借) 前受金	20,000	(貸) 売上	□□□
---------	--------	--------	-----

残額¥80,000は売掛金勘定を用いて処理をする。

残額=代金¥100,000-内金¥20,000=¥80,000

問題文より当社は商品売買に関して、販売のつど売上原価勘定に振り替える方法で記帳しているとあるので、商品勘定の¥75,000（仕入原価）を売上原価勘定へ振り替える処理をする。

※上記の方法で記帳する場合、商品を仕入れた際は、商品勘定を用いて処理をする。

仕入原価=@¥1,500×50個=¥75,000

#### 4. 通信費と租税公課の処理

切手を購入した場合は、通信費勘定を用いて処理をする。

収入印紙を購入した場合は、租税公課勘定を用いて処理をする。

#### 5. 現金過不足の処理

金庫の実際有高¥165,000と帳簿残高¥170,000が不一致であり、原因が不明な場合、現金過不足勘定を用いて処理をする。

実際有高 < 帳簿残高 の場合

(借) 現金過不足	(貸) 現金
-----------	--------

実際有高 > 帳簿残高 の場合

(借) 現金	(貸) 現金過不足
--------	-----------

## 6. 備品購入時の処理

備品購入時に伴って発生する諸費用は、付随費用として備品の取得原価に加える。

備品の取得原価 = 事務用PC代金 + 配送料・据付費などの諸費用

$$= ¥1,500,000 + ¥100,000 = ¥1,600,000$$

代金 ¥1,600,000 は小切手を振り出して支払ったとあるので、当座預金勘定を減少させる処理をする。

## 7. 仕入戻しの処理

掛けで仕入れていた商品を返品し掛代金と相殺した場合、仕入勘定と買掛金勘定の修正を行う。

商品を掛けて仕入れた場合（三分法で記帳）

(借) 仕入	(貸) 買掛金
--------	---------

修正：上記商品を返品し、掛代金と相殺した場合

(借) 買掛金	(貸) 仕入
---------	--------

## 第2問

各金額の算定は、計算することのできる空欄から求める。

### 期首貸借対照表・資産（ア）

$$\text{期首・純資産（資本）} = \text{期末・純資産（資本）} - \text{当期純利益}$$

$$\text{期首・純資産（資本）} = ¥6,500,000 - ¥1,200,000$$

$$\text{期首・純資産（資本）} = ¥5,300,000$$

$$\text{期首・資産（ア）} = \text{期首・負債} + \text{期首・純資産（資本）}$$

$$\text{期首・資産（ア）} = ¥13,500,000 + ¥5,300,000$$

$$\text{期首・資産（ア）} = ¥18,800,000$$

### 損益計算書 費用（イ）

$$\text{費用（イ）} = \text{借方合計} ¥8,500,000 - \text{当期純利益} ¥1,200,000$$

$$\text{費用（イ）} = ¥7,300,000$$

### 期末貸借対照表・資産（ウ）

$$\text{期末・資産（ウ）} = \text{期末・負債} + \text{期末・純資産（資本）}$$

$$\text{期末・資産（ウ）} = ¥5,800,000 + ¥6,500,000$$

$$\text{期末・資産（ウ）} = ¥12,300,000$$

## 第3問

まず各伝票の取引の仕訳をする。

令和 5年 1月 10日 振替伝票 No.  8

(借) 未収金	500,000	(貸) 有価証券	400,000
		有価証券売却益	100,000

令和 5年 1月 20日 出金伝票 No. 17

(借) 未払金	600,000	(貸) 現金	600,000
---------	---------	--------	---------

 令和 5年 1月 12日 入金伝票 No. 31

(借) 現金	500,000	(貸) 未収金	500,000
--------	---------	---------	---------

以上の仕訳を転記する。

#### 第4問

##### 1月6日 商品の仕入れ

受入欄に数量：600、単価：750、金額：450,000を記入する。

前月繰越分@¥720と1月6日仕入分@¥750は単価が異なるので、残高欄には合算して記入することができない。よって、残高欄には下記の通り、前月繰越分と1月6日仕入分を併記する。

{	前月繰越分	数量：500、単価：720、金額：360,000
	1月6日仕入分	数量：600、単価：750、金額：450,000

##### 1月12日 商品の売り渡し

商品の払出単価の決定は先入先出法によっており、売り渡した700個のうち、500個は前月繰越分@¥720を先に全て払い出し、残りの200個は、1月6日仕入分@¥750を払い出す方法で記録する。よって払出欄には下記の通り、前月繰越分と1月6日仕入分を併記する。

{	前月繰越分	数量：500、単価：720、金額：360,000
	1月6日仕入分	数量：200、単価：750、金額：150,000

よって、残高欄には数量：400、単価：750、金額：300,000を記入する。

##### 1月20日 商品の仕入れ

受入欄に数量：400、単価：690、金額：276,000を記入する。

1月6日仕入分@¥750と1月20日仕入分@¥690は単価が異なるので、残高欄には合算して記入することができない。よって、残高欄には下記の通り、1月6日仕入分と1月20日仕入分を併記する。

{	1月6日仕入分	数量：400、単価：750、金額：300,000
	1月20日仕入分	数量：400、単価：690、金額：276,000

##### 1月25日 商品の売り渡し

商品の払出単価の決定は先入先出法によっており、売り渡した600個のうち、400個は1月6日仕入分@¥750を先に全て払い出し、残りの200個は、1月20日仕入分@¥690を払い出す方法で記録する。よって払出欄には下記の通り、1月6日仕入分と1月20日仕入分を併記する。

{	1月6日仕入分	数量：400、単価：750、金額：300,000
	1月20日仕入分	数量：200、単価：690、金額：138,000

よって、残高欄には数量：200、単価：690、金額：138,000を記入する。

##### 1月31日 帳簿の締め切り

次月繰越の行には、残高欄の数量：200、単価：690、金額：138,000を払出欄に記入し、受入欄と払出欄の合計欄に数量と金額の合計したものを下記の通り記入し、受入欄と払出欄の数量と金額の合計が一致することを確認する。

受 入			払 出		
数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
1,500		1,086,000	1,500		1,086,000

## 2月1日 帳簿の開始記入

前月繰越の行には、1月31日次月繰越の行に記入した数量：200、単価：690、金額：138,000を受入欄と残高欄にそれぞれ記入する。

## 第5問

### 決算整理事項

#### 1. 売上原価の算定

期首商品棚卸高は、残高試算表・繰越商品勘定の借方残高より¥826,000であることがわかる。

(借) 仕 入	826,000	(貸) 繰 越 商 品	826,000
繰 越 商 品	832,000	仕 入	832,000

#### 2. 貸倒引当金の見積り

売掛金勘定の期末残高は、解答用紙の残高試算表より¥1,060,000であることがわかる。上記残高の5.0%の貸し倒れを見積るので、貸倒引当金の見積額は、¥53,000である。

貸倒引当金見積額の計算  $¥1,060,000 \times 5.0\% = ¥53,000$

貸倒引当金勘定の決算整理前残高は、残高試算表より¥7,000であることがわかる。

差額補充法により処理するので、貸倒引当金の繰入額は、¥46,000である。

貸倒引当金繰入額の計算  $¥53,000 - ¥7,000 = ¥46,000$

(借) 貸倒引当金繰入	46,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	46,000
-------------	--------	---------------	--------

#### 3. 減価償却費の計算

備品の取得原価は、残高試算表・備品勘定の借方残高により¥3,750,000であることがわかる。定額法により減価償却費の計算を行うので、当期の減価償却費は¥750,000である。

減価償却費の計算  $¥3,750,000 \div 5 \text{年 (耐用年数)} = ¥750,000$

直接法により記帳するので、備品勘定から直接控除する。

(借) 減 価 償 却 費	750,000	(貸) 備 品	750,000
---------------	---------	---------	---------

#### 4. 消耗品の未使用高

消耗品費の残高¥368,000(残高試算表・消耗品費勘定の借方残高)のうち、消耗品の未使用高¥51,000を消耗品勘定へ振り替える処理をする。

(借) 消 耗 品	51,000	(貸) 消 耗 品 費	51,000
-----------	--------	-------------	--------

#### 5. 給料の未払高(見越し)

未だ支払っていないが当期分に該当する給料¥124,000がある場合、当期の給料として記帳し、当期の給料を次期に支払う義務として、未払給料を計上する。

(借) 給 料	124,000	(貸) 未 払 給 料	124,000
---------	---------	-------------	---------

#### 6. 家賃の前払高(繰延べ)

当期に支払った支払家賃¥1,381,000のうち、次期分に該当する¥106,000が含まれている場合、支払家賃勘定から前払家賃勘定へ振り替える処理をする。

(借) 前 払 家 賃	106,000	(貸) 支 払 家 賃	106,000
-------------	---------	-------------	---------